《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業（一部実習施設）の併用実施

《担当者名》 今井智子 太田亨 下村敦司 中川賀嗣 西澤典子 榊原健一 田村至 橋本竜作 福田真二
黒崎芳子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 飯泉智子 葛西聡子

【概要】

基礎実習は、4年次の総合実習への導入を容易にするために行われる実習である。これまで学んだ専門知識をもとに言語聴覚療法の臨床に必要な情報収集、検査、行動観察の実際を見学し、評価の実際、臨床における考え方を知り、それを通じて、医療人としての信条および習慣を修得する。実習期間中は病院或いは施設で臨床実習指導者の下で実習を行う。

【学習目標】

言語聴覚療法と業務の実際を理解するために、言語聴覚療法の具体的な内容や業務について説明できる。

1. 医療職業人としての基本的な態度を身につけるとともに、障害児・者と家族等の人権を尊重し、保護することの重要性を説明できる。
2. 言語聴覚障害をもつ方と接することで、言語聴覚障害をもつ意味、言語聴覚士の役割について説明できる。
3. 臨床現場での実習を通じて、学内で学んだ知識と臨床を統合することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
	見学実習	医療職業人に求められる基本的態度および行動を学ぶ。 評価に際して他職種から得べき情報の種類と収集方法について学ぶ。 患者、家族の同意を得ながら検査し、それに基づいて対応していくことの重要性を学ぶ。	臨床実習指導者 (全担当教員)
	評価・記録に関する実習	評価・治療場面を見学し、その内容を実習日誌に記載する。 適切な日誌の作成および保管法を学ぶ。 検査の目的、意義、限界を学ぶ。	臨床実習指導者 (全担当教員)

【評価方法】

実習終了後に提出された「臨床実習指導者評価」、「各種提出物」（実習日誌など）により総合的に判断する。

【備考】

教科書：北海道医療大学言語聴覚療法学科 編 「基礎実習マニュアル」 2019年度版

参考書：適宜、紹介する。

【学習の準備】

「基礎実習マニュアル」をよく理解し、実習の準備を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 人は人の中でこそ人として生きていけます。お互いがお互いの命や生きることを大切に思える心と感性、そのために必要な幅広い教養、そしてそれを対象者と共有することのできるコミュニケーションを身につけます。

(DP2) 近代医療は“チーム医療”がとても重要です。各医療職の専門性はますます進化していきますので、今後さらに“チーム医療力”が病院・施設などの“臨床力”として特に重要になります。自分の職種と他の職種のそれぞれの役割と専門性をきちんと理解し、患者と家族をチーム医療力でしっかりとサポートできる能力を身につけます。

(DP3) 医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って言語聴覚療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

(DP4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

(DP5) 世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに言語聴覚療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身

につけます。